

Injury Alert (傷害速報)類似事例

傷害速報 No.23 イヤホンのパーツによる食道異物の類似事例 1

事 例	年齢：11 か月 性別：男 体重：9.5 kg	
傷害の種類	誤飲	
原因対象物	イヤホンのパーツ	
臨床診断名	食道異物	
発 生 状 況	発生年月 日・時刻	2014年5月31日 午前6時30分頃
	発生時の 詳しい様子 と経緯	午前6時半ごろ、家事をしていて患児が嘔吐していることに母親が気づいた。まだよじ登れないと思っていたベランダ横の台によじ登っており、そこにあったイヤホンのカバーとコンタクトレンズケースの蓋が見当たらなくなっていた。えづきが続くため、誤飲を疑って当院救急外来を午前7時過ぎに受診した。
治療経過と予後	単純X線写真を撮ったところ、胸腹部に異常陰影はなかったが、頸部に円型の陰影を認めた。消化器内科に依頼し、内視鏡検査を施行した。食道に滞留しているイヤホンのスピーカーの網部分を確認し、摘出を試みたが露出した繊維部分が食道に引っかかり、軽度ではあるが裂傷を引き起こしたため摘出を一旦断念した。麻酔科に依頼し、手術室において、全身麻酔下で再度、内視鏡による摘出を試み成功した(午前11時20分頃)。裂傷による軽度の出血を認めたが、びらんの形成はなかった。2日間、絶食にて経過を観察し、嚥下障害を認めないことを確認し、第4病日から食事を開始し、第5病日に退院した。	

Injury Alert (傷害速報)類似事例

No.23 イヤホンのパーツによる食道異物の類似事例 2 (画鋸)

事 例	年齢：0歳7か月 性別：男 体重：9kg 身長：60cm	
傷害の種類	誤飲	
原因対象物	画鋸（ごく一般的な金属製の画鋸）	
臨床診断名	異物誤飲、食道異物、喉頭狭窄	
医 療 費	869,420円（入院費）	
発 生 状 況	発生場所	自宅リビング 昼留め用の長鋸ではなく、一般的な画鋸でござを留めていた。
	周囲の人・状況	誤飲時の目撃はない。診断後に、発生場所のござを画鋸で留めておいたものが外れていたのを母親が思い出した。
	発生年月日・時刻	2012年 7月 29日頃
	発生時の詳しい様子 と経緯	7月29日に37-38℃の発熱があり、喘鳴、哺乳不良が出現した。咳はなかった。7月30日に近医を受診し、鎮咳薬・去痰薬が処方された。8月1日に当院急病センターを受診し、喘鳴を認めたために気管支拡張薬を吸入したが改善はなく、小児科医にコールがあった。吸気性喘鳴が著明で、陥没呼吸があり、喉頭・胸部X線単純写真(図1)で食道(喉頭蓋下方15mm、気管後方5mm)に鋭利端が前方を向いた画鋸を認めた。血液検査ではCRP 4.94mg/dl, WBC 10,800であり、異物による感染や膿瘍の形成も疑われ、全身麻酔下で緊急異物摘出術を施行するため8月2日に入院となった。
治療経過と予後	異物誤飲と診断した後、すぐに耳鼻科・消化器内科・麻酔科と連携し、全身麻酔下に異物摘出術を施行した。喉頭展開で食道入口部に金属片を確認し、鉗子で異物(画鋸)を摘出した(写真1)。食道前壁の粘膜の腫脹が著明で、画鋸は鋭利端が前方を向きほぼ埋没していた。喉頭後壁も、食道前壁の浮腫、あるいは膿瘍により圧排され喉頭の狭窄があると判断した。異物除去後も気管挿管による人工呼吸管理を継続し、抗菌薬とステロイド薬を投与した。8月3日には、喉頭ファイバーにて上咽頭の軽度の浮腫を認めたが、下咽頭には浮腫を認めず抜管した。嘔声、吸気時に喘鳴を認めたが酸素投与で呼吸状態は安定していた。8月4日には、呼吸状態は安定しており酸素投与を中止し、ステロイド薬は減量した。哺乳の再開後にSpO ₂ の低下がみられたが、吸引にて酸素化は改善した。8月5日には吸気性喘鳴は改善傾向となり、ステロイド薬を中止した。8月6日に退院し、その後は発達も正常に経過している。	

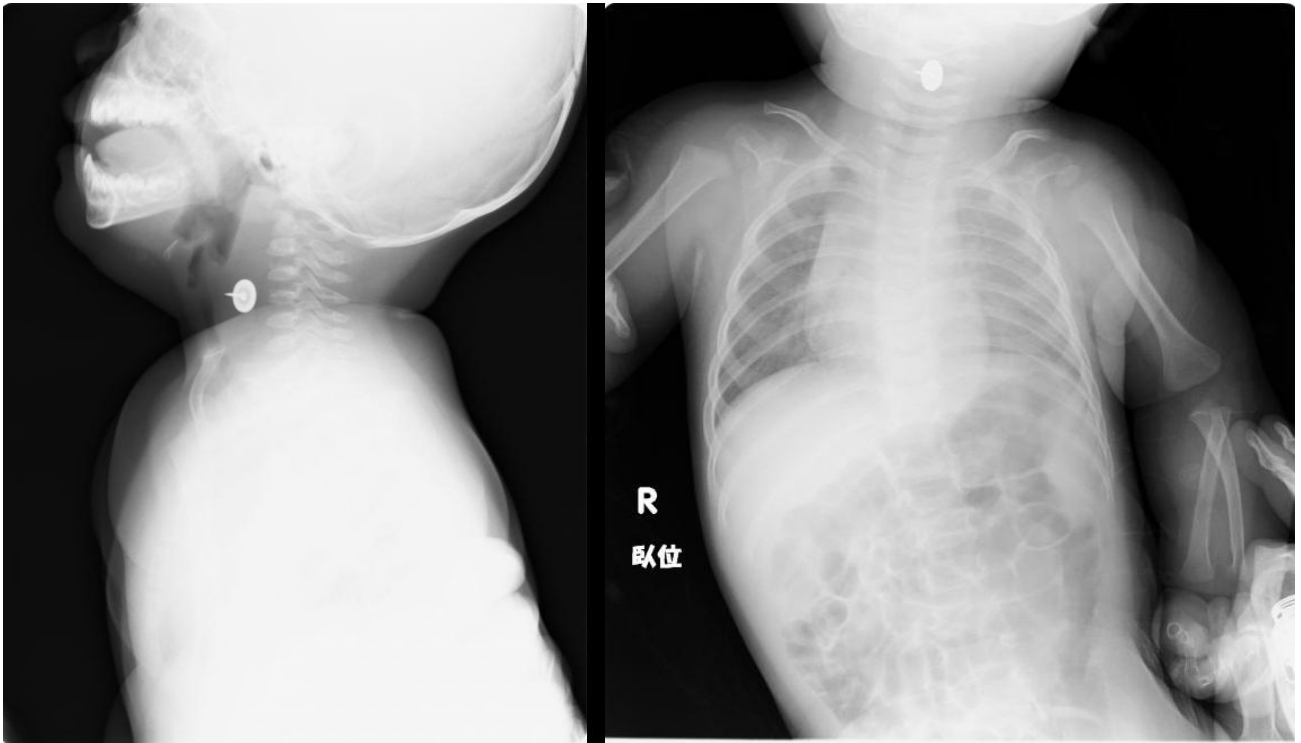


図1 喉頭・胸部 X線単純写真の画像

喉頭蓋下方 15mm、気管後方 5mm の位置の食道に画鋲を認める



写真1

摘出した画鋲